

未来の二つの顔

～電話とインターネットの狭間で～

インターネットガバナンスとJANOG

2014/01/24

日本インターネットエクスチェンジ株式会社

石田慶樹

なぜ今インターネットガバナンスか



「インターネットガバナンス」=「ルールを作る場」

適切な利害関係者（ステークホルダ）が揃うことが必要かつ十分



**マルチステークホルダ
モデル**

ルールを作る場では：

- ・ ドラスティックにルールが変わる可能性がある
- ・ ルールを変えるチャンスでもある
- ・ オープンな場で決まったルールに文句を言うことはできない
- ・ ルールが決まった後には逆らいにくい
- ・ ルールを作る場は勝ち負けを決める場ではない

ステークホルダー？

ルールの実効性の担保

- ・ステークホルダーがルールの実行性に対し責任やコミットメントを行う必要性がある
- ・実効性を担保できる人たちがステークホルダーであるべき

オペレータ 〇 実効性を担保できる人

インターネット・ガバナンス



難問山積

- ・ 米国・民間主導に対する反感（親米vs反米）
- ・ 「市民」の言論の自由
- ・ 「市民」の分断とタコ壺化
- ・ インターネット・ガバナンスにおける「プロ市民」
- ・ “Enhanced Cooperation”というbuzz word
- ・ 「公平」な資源配分とは？
- ・ インターネットの分断/国別インターネット
- ・ DigiNotar事件の正当化の動き
- ・ 侃々諤々の中でおこったP3M暴露
- ・ そもそもインターネットは「電気通信」なのか？

Copyright (C) JPIX2014 All Right Reserved.

4

危機感

ルールを決めたがってる、かつ我田引水したがってる人は多数いる

- ・ 非民主的国家
- ・ 原理主義者
- ・ Noisy Minority (一部の過激な市民)

“マルチステークホルダー”の名のもとに

- ・ 政府、法律家、技術者、学識経験者、市民、等々

技術的・運用面でできること、できないこと

- ・ 技術者はできることできないことを知っている筈
- ・ 気持ちの悪いことをやられると、都合のいいように作りがえられるかも

インターネットと電気通信網

インターネット

- ・ オープン
- ・ エンドユーザ指向
- ・ 制御不可
- ・ 混沌

IP技術

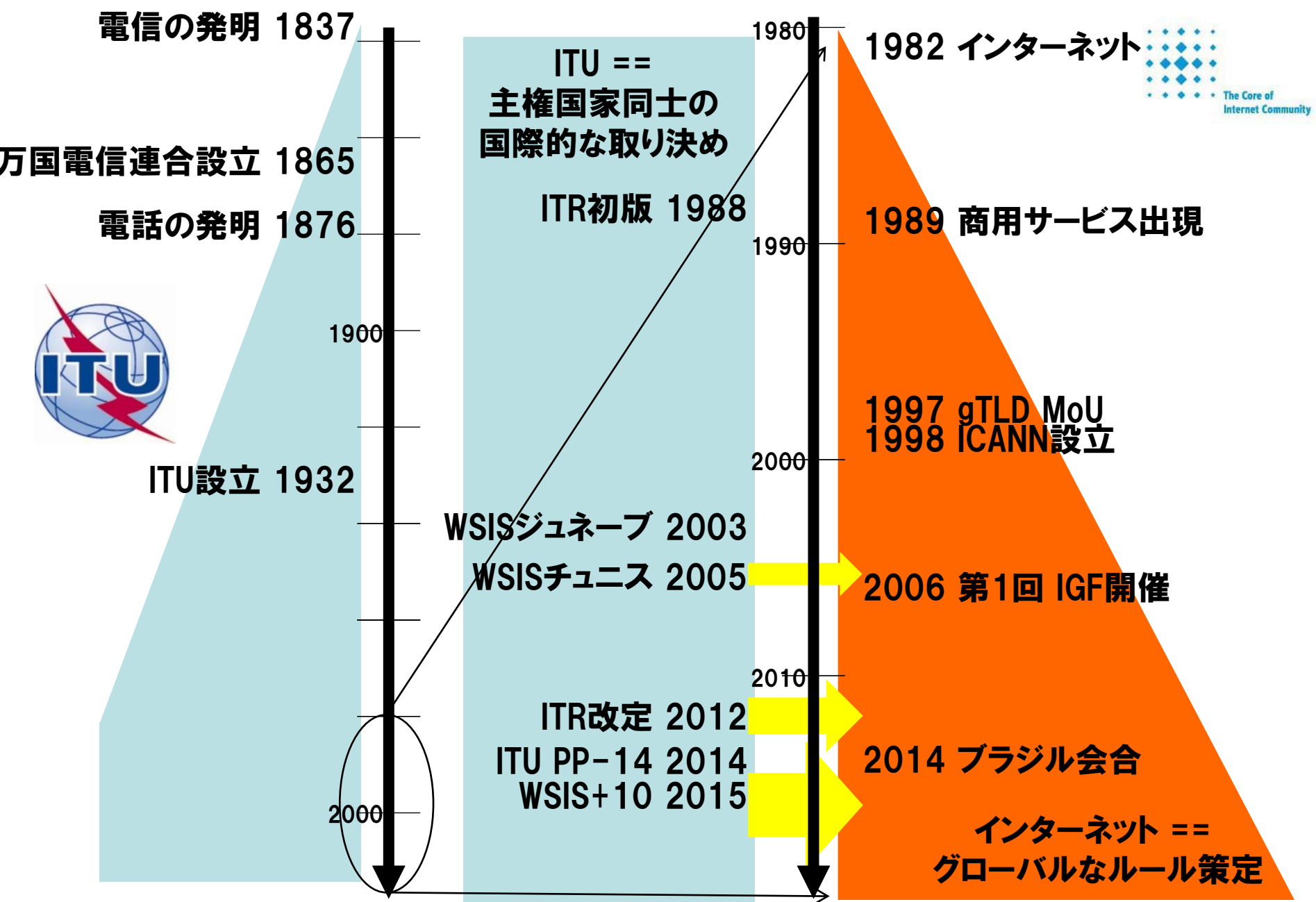
インターネット・コミュニティ
マルチ・ステークホルダ
国家もステークホルダの一つ
民間主導

ITU

国家が主導
統制権限
国連的意思決定

電気通信網

- ・ 秩序
- ・ 制御可能
- ・ 通信事業者主導
- ・ クローズ



そもそも論

インターネットは情報流通基盤

- ・ 基幹技術として電気通信技術やネットワーク技術を使っているものではないのか
- ・ アプリケーションの一つとして電気通信も行っているのではないのか
- ・ 電気通信における規制が必要な部分は
 - ・ 基幹技術としての電気通信
 - ・ アプリケーションとしての電気通信
- ・ インターネットに電気通信的規制はそぐわないのではないのか

ということで

技術・運用を誰がどう Represent するのか

- ・ 判っている人

Small Start

- ・ 運用コミュニティ→業界コミュニティ→技術コミュニティ→対外試合

できることから一歩ずつ

- ・ まずは可能な所に参加してみる
- ・ いろんな人の顔を覚える、顔を覚えてもらう
- ・ 誹謗中傷は無視する
- ・ 参加「だけ」をサポートする仕組み作りも重要

未来の二つの顔

規則規範に基づく
国毎の秩序ある
ネットワーク

競争原理に基づく
グローバルで何でも
ありのネットワーク